



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン

ぼん子画

(530-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL：06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail：daimao@travelmitra.jp)

「おっさんたちの旅」 鎌倉③

鎌倉駅でオメダBとグズ六Bと合流し、おっさんたちの旅が始まった。センチメンタル・ジャーニーだ。

江ノ島電鉄に乗って、まず極楽寺駅にむかった。江ノ電に乗るのは二度目で、懐かしさが一気に込み上げてきた。テレビ・ドラマ「俺たちの旅」の主題歌（小椋佳）の前奏曲が耳の奥から流れてきた。タタターン・タタ・・・

夢の坂道は木の葉模様の石畳
まばゆく長い白い壁
足跡も影も残さないで
たどりつけない山の中へ
つづいているものなのです

あゝ、インドに行くべきか、行かざるべきか、行くなら何のために行くのか、夢の坂道で迷っていた。そうこうしている内に、卒業が迫ってきた。急場しのぎに、大学院の試験を受けたが、落ちた。オメダBや優れた哲学徒が進むべきで、愚学生のおわが輩に席などあるはずもなかった。同じく試験に落ちたO君が、恩師哲学者Sの御自宅を訪ねようと誘ってきた。その御自宅が極楽寺にあった。

コトコトと江ノ電に乗ったことを記憶している。電車を降りて、踏切を渡り、山路を上ると哲学者の家があった。農家のような佇まいであった。哲学者西田幾多郎が住んでいた家を恩師が譲り受けた、とも聞いた。そこに一人で住んでおられた。

大抵はO君が会話していたので、わが輩は内容を殆ど覚えていない。

「なぜ、卒論にルソーを選んだ。簡単だから選んだのですか」

恩師から聞かれたが、答えることができなかった。たわい無い動機で選んだからである。

「大阪に帰って『仏教』を勉強したいと思いますが、何を勉強すればよいでしょうか」

法華経、維摩経、勝鬘経を勉強なさい、と言われた。その中の「仏性」（人・仏さまの本質）について学べと言われた記憶がのこっている。恥ずかしながら、未だに経典を開いたことがない。

記憶をたどって、恩師旧宅を探したが、住宅だらけになっていて、その場所さえ分からな

かった。恩師の“足跡も影も”残っていなかった。

それでも満足した。建物を見ても意味がない。恩師の思想というのか、哲学というのか、それについて思いを巡らすことに意味がある。

それから江ノ電にのり、江ノ島駅までコトコトをたのしんだ。まるで子どものようにからだもこころも軽くなった。折り返し途中に、鎌倉高校前駅でひとときおりて、おっさん三人がホームのベンチから海をながめていた。青い海がホームから広がっていた。

この駅前の海岸も「俺たちの旅」の撮影現場だ、とグズ六は言った。

なにも考えることなく海の青さに浸っていると、ある想いが浮かんできた。今からでも何かできる。恩師の教えにそって、何かを考えてみる。この生命尽きるまでに・・・。

それで「人を尊敬する哲学」を考えてみることを想いついた。

1. 自分を尊敬する。
2. 自分の何を尊敬するのか。
3. 自分の何が尊敬できないのか。
4. 人を尊敬する。
5. その人の何を尊敬するのか。
6. 尊敬できない人がいるのか。
7. 人たちを尊敬する。
8. その人たちの何を尊敬するのか。
9. 尊敬できない人たちがいるのか。
10. そもそも何のために尊敬するのか。

ここで問題なのは、自分を尊敬すること、である。人さまを尊敬するよりも、自分のことながら自分を尊敬することは、意外と難しいかもしれない。そもそも、一体自分のどこを、何を尊敬するのか。自分の身体か心か、それとも全体か。はたまたそれら以外のものか。

今のところ、分かっていることの一つは、自分を尊敬できないものは、真に人さまを尊敬できない、ということである。これも、あらためて検証してみたい。

この想いは、海が引き寄せた。

寄せては引き、引いては寄せる波のように、想いは巡る。いつまでたっても、結論にいたらないかもしれない。とにかく、ゆっくりと、たどりつけない山の中にむかって、夢の坂道をのぼってみよう。